

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

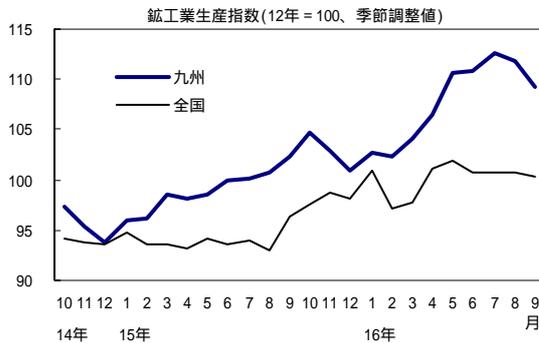
前回調査からの主要変更点

	前回（平成16年8月）	今回（平成16年11月）	
鉱工業生産	増加	緩やかに増加	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイスは、車載向けの集積回路、デジタルカメラ向け映像デバイス等が好調で、高水準の生産が続いているが、携帯電話向けが低調であったことや、デジタル家電向け集積回路で海外向けが伸びなかったことなどから、おおむね横ばいとなった。輸送機械は、自動車は海外向けを中心に好調な生産が続いているが、造船関連でディーゼル機関が減少したことなどから全体では減少した。一般機械は、船舶向けボイラー、中国向けの発電機関連、フラットパネルディスプレイ製造装置等の増加から全体でも大幅に増加した。食料品・たばこは、肉製品や焼酎等の減少により、全体でも減少した。化学は、医薬品の減少や、台風の影響で生産を休止した工場があったことなどから全体でも減少した。



(備考) 平成16年9月の九州は速報値。

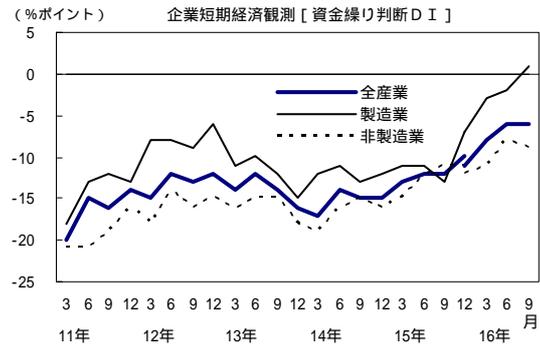
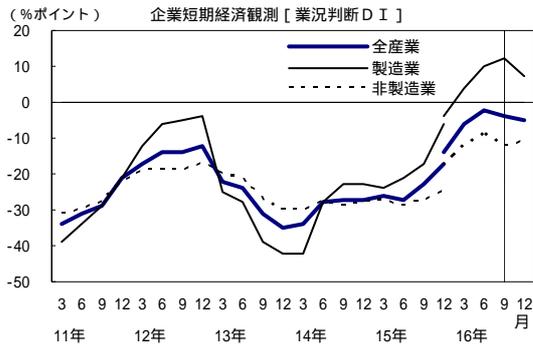
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子品・デバイス	14.9	0.3	0.5	1.2	14.3
輸送機械	11.7	3.0	2.8	3.1	37.9
一般機械	11.0	31.2	18.4	16.9	1.9
食料品・たばこ	10.8	3.3	2.5	0.6	0.0
化学	8.5	3.4	4.1	2.1	0.2
鉱工業	100.0	6.1	1.7	1.5	1.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

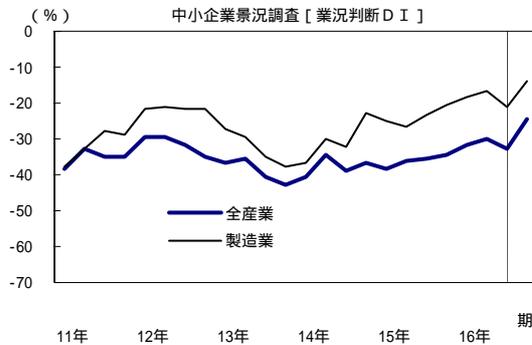
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「中国生産の見直しにより、国内受注への見直しや追加生産があったものの、相変わらず単価が安い。国内工場も少なくなったために、今生き残った工場は辛うじて稼働している状態で、全体的には良くない(繊維工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

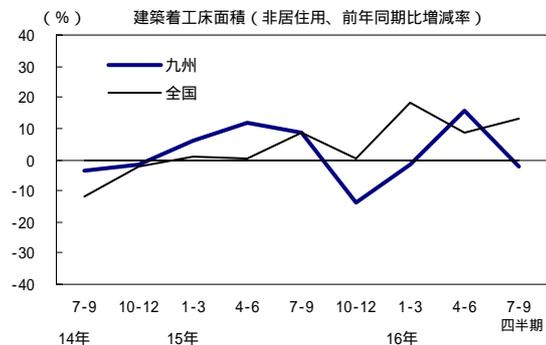
(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度概
全産業	2.6	10.5 (0.8)
製造業	12.1	41.8 (1.6)
非製造業	1.1	3.3 (0.4)

(備考)()は前回 (6月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

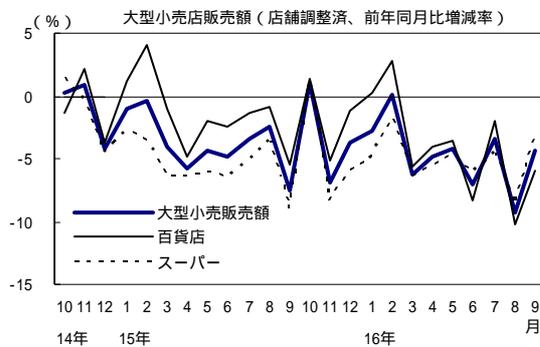
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は猛暑により夏物商品が好調であったものの、単価が低いことなどから売上が伸びず前年を下回った。8月はアテネオリンピックや台風の影響で客足が遠のいたことに加え、残暑により秋物衣料品の動きが鈍かったことなどから前年を下回った。9月は残暑により秋物衣料が不振であったことや台風の影響により前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、九州・沖縄地区の10月の売上高は前年同月比で6.8%減となっている。

スーパーは、残暑による秋物衣料の不振など衣料品の低迷、ホームセンター等と競合する品目の多い「その他の商品」の不振、さらにはアテネオリンピックや台風の影響等により前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

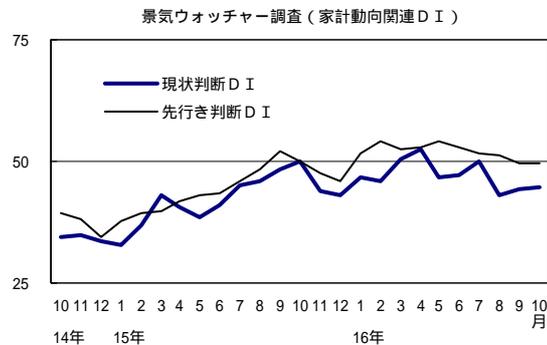
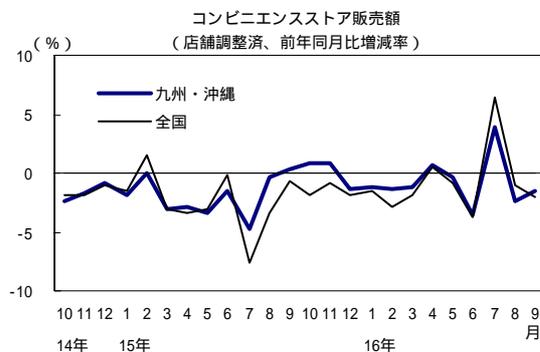
「大型台風の襲来に加え、地元球団優勝セールができなかったことにより、依然として前年に届かない。一方で、健康や美容といった、客のニーズに密着した仕掛けは好調で、販売高は増加している(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	3.3	3.1	5.4	5.6
百貨店	1.6	1.3	5.3	5.7
スーパー	4.6	4.4	5.4	5.6
コンビニ	0.0	1.2	1.1	0.0
景気ウォッチャー	45.6	47.6	48.9	45.8

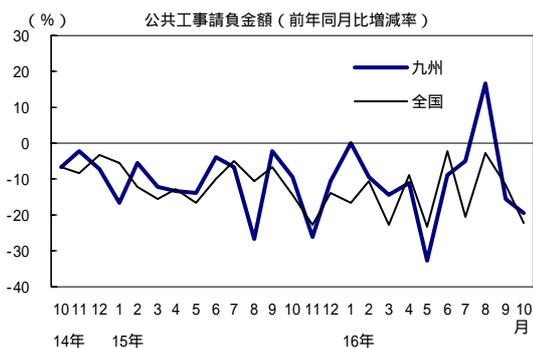
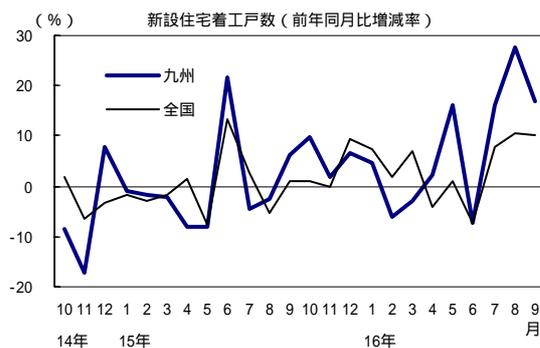
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。九州・沖縄地区の値。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家、分譲、持家が前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

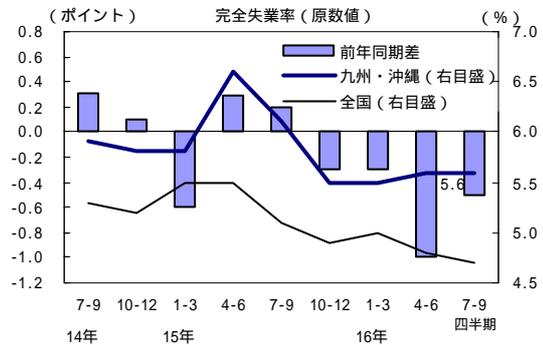
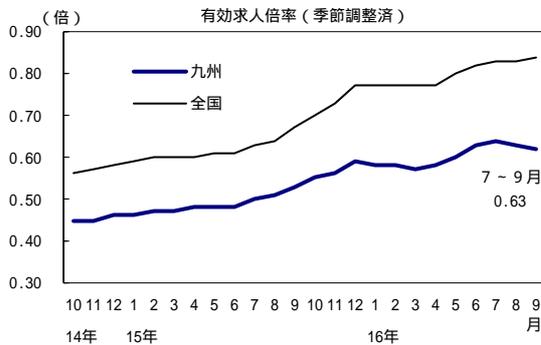


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

「当社が発行する求人情報誌の取扱求人件数は前年を上回ったまま好調に推移している (求人情報誌製作会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月	16年10月
倒産件数	335	300	287	283	105
(前年比)	20.8	15.0	23.5	22.0	17.3
負債総額	1,983	787	1,071	916	536
(前年比)	29.7	76.6	17.6	49.7	43.6



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・製造業の設備投資に伴う出張宴会 (竣工式等) を受注しているものの、全体的な来客数の動きはまだ良くなっているとは言い難い (都市型ホテル)。

<先行き>

・食料品全体の売上は前年比 105 ~ 106% になると思われるが、青果物は価格高騰で粗利益が同 5 ~ 6% 下落している。衣料品は秋物に続き冬物も不振になると懸念している。総合すると、食料品が衣料品等の不調をカバーしきれず、良くても前年並みである (スーパー)。

景気ウォッチャー調査 (合計D I)

